令和８年 10 月 29 日

令和８年度都道府県による堅果類等の豊凶調査（結実調査）（速報）

環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室

１．概要

- 令和８年度については、クマが生息する 37 都道府県のうち、24 道府県において豊凶調査（結実調査）が実施されました（令和８年 10 月 29 日現在)。
- 今年の秋の傾向として、北海道、北関東、近畿地方、中国地方で堅果類等の実りが悪く、人の生活圏への出没や、クマの生息地でのクマとの遭遇に注意が必要と考えられます。
- 具体的には、北海道、栃木県、群馬県、滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、鳥取県、山口県が、クマの出没等について注意喚起を行っています。

多くの都道府県では、堅果類等の豊凶調査について、都道府県全域の調査結果とともに、調査結果を地域ごとに区分した結果を公表している場合があります。そのため、都道府県域全体としては実りが良い場合であっても、地域ごとの実りの状況に応じ、クマの出没について注意を呼び掛けている場合があります。そのため、調査の詳細については各都道府県の公表資料をご確認ください。

また、堅果類等の実りが良い場合であっても、人里に誘因物がある場合等には、クマの個体によっては出没する可能性があることにもご留意ください。

なお、林野庁の関係森林管理局において、国有林内のブナに関する調査を公表しています。詳細は、本資料巻末の参考資料をご参照ください。

２．令和８年度都道府県による堅果類等の結実調査の結果

（１）調査実施状況

令和８年度については、クマが生息する 37 都道府県のうち、24 道府県において豊凶調査が実施されました（令和８年 10 月 29 日現在）。

都道府県	調査結果の掲載先（令和８年 10 月 27 日確認）
北海道	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/higuma/216423.html
青森県	－
岩手県	－
宮城県	－
秋田県	－
山形県	－
福島県	https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16035b/kennkaruityousakekka.html
栃木県	https://www.pref.tochigi.lg.jp/d04/choujyuu/r7_kuma_houkyoutyousa.html
群馬県	https://www.pref.gunma.jp/site/houdou/776859.html
埼玉県	https://www.pref.saitama.lg.jp/a0508/news/page/news2026101602.html
東京都	－
神奈川県	－
新潟県	https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kankyotaisaku/1319666477310.html
富山県	https://www.pref.toyama.jp/1709/kurashi/kankyoushizen/shizen/yaseiseibutsu/houkyou.html
石川県	https://www.pref.ishikawa.lg.jp/sizen/kuma/r7kumaesa.html
福井県	https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/shizen/tixyouzixyuu/tukinowaguma2.html
山梨県	－
長野県	https://www.pref.nagano.lg.jp/shinrin/happyou/20260917press.html
岐阜県	https://www.pref.gifu.lg.jp/site/pressrelease/518581.html
静岡県	https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/shizenkankyo/wild/1017680.html
愛知県	https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/tsukinowaguma.html
三重県	－
滋賀県	https://www.pref.shiga.lg.jp/dg00/press-release/33776.html
京都府	https://www.pref.kyoto.jp/choujyu/kumanitsuite.html
兵庫県	https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk20/r7hokyochosa.html
奈良県	https://www.pref.nara.lg.jp/n118/p043035.html
和歌山県	－
鳥取県	https://db.pref.tottori.jp/pressrelease.nsf/webview/29793CB4D09F8EDF49258E670022443C
島根県	https://www.pref.shimane.lg.jp/admin/region/kikan/chusankan/choju/kuma_.html
岡山県	－
広島県※	https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/wildlife-management/wm-bear-main.html （ https://www.pref.shimane.lg.jp/admin/region/kikan/chusankan/choju/kuma_.html ）
山口県※	（https://www.pref.shimane.lg.jp/admin/region/kikan/chusankan/choju/kuma_.html）

※クマが恒常的に生息していない、または生息数が少ない茨城県、千葉県、大阪府、四国・九州・沖縄各県は除外

※広島県及び山口県は、西中国山地として島根県が取りまとめ、公表

（２）令和８年度都道府県による堅果類等の結実調査の概要（速報値）

別紙参照

【参考】堅果類等の豊凶調査

１．堅果類

日本の多くの落葉広葉樹林は、ブナ科樹木が広く優占しています。ブナ科樹木が生産する堅果類は炭水化物や脂肪分が豊富で、クマにとって秋期の重要な栄養源となります。そのため、秋期におけるクマの出没件数は、堅果類の豊凶に大きく左右されます。

この特徴を利用して、クマの出没を予測すべく、堅果類の豊凶を把握する調査が実施されています。その中で広く行われている調査には、春期または夏期に開花度を調べることで秋期の豊凶を予測する調査（以下「開花調査」）と、秋期に結実量を調べることで豊凶を把握する調査（以下「結実調査」）があります。

（１）開花調査

植物の種子は、雄花の花粉が雌花に受粉することで生産されます。そのため、種子の豊凶には雌花数が関係しますが、受粉効率も影響を与えるため、雄花数も重要であると考えられています。

開花調査は、樹種の特徴に応じて、雄花序や雌花序の目視調査（ブナ属など）または落下数調査（ナラ属など）によって秋期の豊凶を予測する調査手法です。しかし、未受粉によるシイナ（中身のない実）が生じたり、虫害により健全種子にならない種子もあるため、正確な予測は困難です。そのため開花調査は、初夏までの期間に、おおよその豊凶を知ることを目的として実施されています。

（２）結実調査

結実調査は、大きく分けて、堅果の落下数調査と、堅果の目視調査の２種類があります。堅果の落下数調査は、調査木の下にシードトラップを設置し、落下した堅果の数をカウントする調査方法です。この調査では、堅果が落下する

までカウントが不可能なため、実施時期が限られます。さらに、調査地点ごとにトラップを設置したり、計数作業を行うなど労力が大きくなるため、多くの地点で実施することはできません。しかしながら、実際の堅果数を把握することができ、一定の範囲の堅果数を定量的に把握することが可能な調査手法です。

これに対し、堅果の目視調査は、調査木を観察し、秒数を定めて堅果の数をカウントする方法や、樹冠の一部区画を限定して区画内の堅果の数をカウントする方法等があり、一般的に、道路などから林縁樹冠を観察して行います。堅果の落下数調査と比べて、地点ごとの労力が小さいので、多くの地点において調査を実施することができます。目視調査から得られる豊凶指数は、堅果類の実りの程度を相対的に示すものであり、実際の実りの状況を把握することはできません。一部の地点で目視調査と落下数調査を併せて実施し、豊凶指数と実際の落果数との関係を明らかにすることで、広域で実施する目視調査の結果から堅果類の生産量を推定することが可能となります。

２．出没に影響を与える堅果類以外の食物

上述のように、クマは、一般的に秋期に堅果類への依存度が高いことが知られています。しかし、春期には前年の落下堅果、様々な植物の新芽や新葉、夏期にはミズキやヤマブドウなどの液果類やアリ等の昆虫を利用するなど、季節によって様々な食物を利用することも知られています。

さらに、各種液果の成熟状況に応じて、次々と採食する種を変えることや、年によっては、すべての季節で食物の種類の変動がみられた事例も報告されています。

以上のことから、季節や年による食物の変化に応じ、行動を変化させていると考えられます。そのため、それぞれの地域においてクマの出没と関連が深いと考えられる堅果類が凶作であった場合にも、堅果類以外の食物が代替食物として機能し、出没が緩和される場合もあります。

３．大量出没が予想された際の対応

クマにとって秋期の重要な栄養源である堅果類や、その他の食物をモニタリングし、凶作が観測された時には、秋期に餌を求めて行動範囲を広げた結果出没件数が増加することが予測されます。秋期の大量出没では、出没数の増加のみならず、普段出没がない地域にも出没することがあり、被害件数が増加します。

そのため、大量出没による被害を減少させるためには、通常時以上に対策を強化し、情報を広く知らせることが必要です。

ここでは、大量出没が予測された際に行うべき対策等をご紹介します。

① 自治体が実施すべき対策

大量出没が予測された場合には、通常の対策を基本としながらも、出没に備え、対策を強化していく必要があるため、以下のような対策を実施します。

- 緊急会議：被害件数が増加する恐れがあるため、専門家や関係機関と認識を共有し、対策について協議します。
- 体制の強化：対応人員の増強、パトロールの頻度を高めるなど警戒態勢を強化します。また、業務時間外（深夜や休日）に捕獲を含めた対応を求められることが増加することに備え、当番体制を強化します。
- 注意喚起：住民に対して、クマと遭遇する危険性が高まっていることを周知します。周知の方法としては、自治体のホームページへの掲載や、報道発表、役場公共施設へのポスター掲示などがあり、緊急性等に応じて適切な手法を選択します。
- 環境点検・整備：これまでに出没が頻発していた地域では、重点的に環境点検と整備を実施します。また、これまで出没が見られなかった地域においても、クマが出没する可能性がある地域（生息域から近い地域など）については、対策の実施を検討します。さらに、私有地については、必要に応じて放任果樹伐採の補助や電気柵貸出しなどの対策支援を実施します。

② 地域住民への周知と注意喚起

大量出没が予測されたとしても、地域住民がどのような対策を行うべきなの

かを判断することは困難です。そのため、地域住民が取り組むべき対策を周知するとともに、クマの大量出没予測を周知する注意報や警報等（以下「出没警報等」という）により注意を喚起します。

【地域住民への周知】

- 誘引物の管理：秋期のクマは庭先のカキに一晩中留まるなど、食物への執着心が強くなっています。そのため、カキの木等の伐採や剪定もしくは収穫、放置された農作物、生ごみ、コンポスト、ペットフードなど、誘引物の管理を通常時以上に徹底する必要があります。
- 環境整備と地域での協力：堅果の凶作時には多くのクマの行動圏が拡大し、人の生活圏と重複します。そのため、林縁の藪や河川など、クマの潜める環境や移動経路がないかを改めて確認し、刈り払いなどの環境整備を実施してください。また、地域で協力して、集落点検を同時に実施することが効果的です。
- 家屋等への侵入防止対策：人家周辺において食物を得ることを学習したクマは、探索行動によって家屋等に侵入することがあります。特に凶作時のクマ類の行動は大胆になる傾向があることから、家屋等への侵入を防ぐため、住宅、車庫、倉庫等の戸締りを徹底することが推奨されます。
- 遭遇しないため・遭遇した時の注意：クマの大量出没時は、人の生活圏での人身被害が増加します。クマと遭遇しないために気を付けること、また、遭遇してしまった時に取るべき行動についても、通常時以上に周知する必要があります。必要に応じて、学習会等を開催し、実際の対策のイメージを持ってもらうことも効果的です

【出没警報等】

堅果類等の凶作が予測される際には、出没警報等を発令することなどにより、地域住民の警戒心を高めることが必要です。出没警報等を広く周知するためには、ホームページや SNS への掲載、報道発表、町内会を通じた広報等が有効です。

なお、堅果類等の豊作が予想された場合であっても、クマの大量出没が発生

しないとは限らないため、「大量出没はありません」といった広報は敢えて行う必要はないと考えられます。

参考資料

- クマ類の出没対応マニュアル－改定版－（令和３年３月　環境省自然環境局）

  https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5-4a/index.html

- ツキノワグマ出没予測マニュアル（平成 23 年２月　独立行政法人森林総合研究所）

  https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5-4a/cause/full.pdf

- ツキノワグマ大量出没の原因を探り、出没を予測する（平成 23 年２月　独立行政法人　森林総合研究所）

  https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5-4a/background/full.pdf

- クマによる人身被害の分析レポート（令和８年４月）

  https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/kuma-bunseki-r0804.pdf

- 国民向けのクマに関する情報

  https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/kuma-info-citizen.html

- 東北森林管理局　ブナ開花・結実調査

  https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/sidou/buna.html

- 関東森林管理局　令和８年度堅果類（ブナ）豊凶調査の結果について

  https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/press/keikaku/260930.html

- 中部森林管理局　令和８年度 堅果類（ブナ・ミズナラ・コナラ）の豊凶調査結果について

  富山県　https://www.rinya.maff.go.jp/chubu/press/kouhou/R8/260925.html

  長野県　https://www.rinya.maff.go.jp/chubu/press/kouhou/R8/260925_1.html

  岐阜県　https://www.rinya.maff.go.jp/chubu/press/kouhou/R8/260925_2.html

  愛知県　https://www.rinya.maff.go.jp/chubu/press/kouhou/R8/260925_3.html

- 近畿中国森林管理局　令和８年度ブナの結実状況について

  https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/press/sidou/260930.html

別紙：令和８年度都道府県による堅果類等の結実調査の概要（速報値）

令和8年10月29日

都道府県	ブナ	ミズナラ	コナラ	堅果類以外	分類数	分類方法	調査結果の概要（令和8年度秋の留意点等）
北海道	豊作又は並作傾向	不作傾向	－	ヤマブドウ:不作傾向 コクワ:並作傾向	4	豊作>並作>不作>凶作	4種の実なりは、昨年のような凶作ではないものの、平年よりやや悪い傾向です。秋はヒグマが食物を探し広範囲を移動することもあり、人の生活圏に出没する可能性もあります。ヒグマに出遭わない・寄せ付けないための対策が必要です。
秋田県	豊作	並～凶	—	—	4	豊作>並作>凶作＞無作	—
福島県	大豊作	豊作	豊作	—	5	大豊作>豊作>並作>凶作>大凶作	3種ともに豊作以上に結実しており、クマのえさ不足が発生する可能性は低く、今年の秋は人里への出没は減少することが予測されます。
栃木県	並作～豊作	不作～凶作	不作～凶作	クリ:並作	4	豊作>並作>不作>凶作	本県ではミズナラ林やコナラ林が広く分布していることから、秋以降は餌を求めたクマの行動範囲が広がり、人里周辺への出没や登山道やキャンプ場などで遭遇するおそれがあります。
群馬県	並作	不作	不作	クリ:不作、ミズキ:並作	7	大豊作>豊作>並作>不作>凶作>大凶作>無(結実が見られない)	今年度の豊凶調査結果は「不作」で、餌を求めてクマが秋期に人里等へ出没する可能性が高くなることが予測されるため、クマとの遭遇による人身被害や、農作物被害等が発生することが考えられます。
埼玉県	凶作	並作	並作	—	5	大豊作>豊作>並作>凶作>大凶作	ドングリ全体での実りは昨年度から改善しておりますが、ドングリの豊凶に関わらず、引き続きご注意ください。
新潟県	豊作	並作	並作	クリ:豊作、オニグルミ:並作	4	豊作>並作>不作>凶作	依然としてツキノワグマの出没が確認されているため、特にきのこ狩りや秋の行楽での入山などクマの生息域に近づく場合は、引き続き、被害にあわない行動を徹底してください。
富山県	豊作	並作	並作	—	4	豊作>並作>不作>凶作	クマの出没と関連の深いブナとミズナラについて、1.ブナは15調査個所のうち11か所で豊作、2.ミズナラは16か所のうち10か所で並作であったことから、この秋は平野部へ大量出没する可能性は低いと予測されます。
石川県	大豊作	並作	並作	—	5	大豊作>豊作>並作>凶作>大凶作	ブナが大豊作、ミズナラとコナラが並作となり、今年の秋はクマのエサは不足しない見込み
福井県	豊作	不作以下	並作	—	3	豊作>並作>不作以下	令和8年の堅果類の作柄は、ブナが豊作、ミズナラが不作以下であり、クマの大量出没が発生するパターンを示さなかった。調査結果を大量出没予測モデルに当てはめた結果、餌資源量の観点からは、大量出没年の可能性は低いと判定された。
山梨県	豊作	凶作～並作	凶作～並作	—	4	豊作>並作>凶作～並作>凶作	—
長野県	豊作	並作	並作	クリ、クヌギ等:並作上	8	大豊作>豊作>並作上>並作>並作下>不作>凶作>大凶作	県内全域で堅果類の結実が多い傾向のため、山林内にとどまるクマが多いと予測されます。キノコ採りなどで山林に入る際は十分に注意してください。堅果類の結実量にはバラツキがあるため、一部地域では人の生活圏にクマが出没することも考えられますが、大量出没の危険性は低いと考えられます。
岐阜県	並作	並作	並作	—	5	大豊作>豊作>並作>凶作>大凶作	県全体では、堅果類の凶作を要因とするクマの出没増加の可能性は、今日昨年と比べて低いと考えられます。
静岡県	並作	並作	並作	—	4	豊作>並作>不作>凶作	—
愛知県	—	並作	並作	—	5	大豊作>豊作>並作>凶作>大凶作	2026年度の本件におけるドングリの実りは、全県平均では並作となったものの、調査地点により凶作から豊作までばらつきがあり、地域によってはエサを求めてクマが人間の生活圏に出没する頻度が高まる可能性があると考えられます。
滋賀県	並作	不作	不作	—	4	豊作>並作>不作>凶作	ブナが並作のため、出没が少ない可能性がありますが、ミズナラ及びコナラが不作のため、出没への注意が必要です。
京都府	並作	凶作	凶作	イヌブナ:凶作	3	豊作>並作>凶作	今年はブナ科種子（どんぐり）が凶作であり、エサを求めて集落に出没する可能性が危惧されます。
兵庫県	豊作	大凶作	大凶作	—	6	大豊作>豊作>並作上>並作下>凶作>大凶作	森林動物研究センターが兵庫県下のドングリ類（堅果類）の豊凶調査を実施したところ、今秋のドングリ類の実りは、全体としては「凶作」であることが判明しました。4月～8月の目撃・痕跡件数は過去最多となっており、今後、冬眠前のクマが餌を求めて人里へ出没する可能性が高まります。
奈良県	凶作か並作下	凶作	凶作	—	4	豊作>並作上>並作下>凶作	今年度は県南部の山間地域でクマの主要な餌資源である堅果類の果実が少ないことから、冬眠を控えたクマが餌を求めて集落付近に出没する機会が増加するおそれがあります。
鳥取県	大豊作	凶作	並作下	クリ:凶作	6	大豊作>豊作>並作上>並作下>凶作>大凶作	ブナは大豊作ですが、県内では高標高域にしか分布していません。県内で広くみられ、大きな面積を占めるコナラは並作下の見込みであることから、豊作年だった昨年に比べてツキノワグマの出没が多くなる可能性があります。
岡山県	凶作	凶作	凶作	—	3	豊作>並作>凶作	—
島根県	豊作	凶作	豊作	シバグリ:豊作、アラカシ:豊作、スダジイ:豊作、シラカシ:豊作、クマノミズキ:凶作、ウワミズザクラ:豊作	3	豊作>並作>凶作	堅果類は概ね実りが良いため、10月以降の出没数が極端に増加しないと予測される。ただし、西中国地域における主要な餌資源と考えられるコナラは、一部の地域では凶作であり、凶作地域とその周囲では出没数が増加する可能性がある。
広島県	—	凶作	豊作	シバグリ:豊作、アラカシ:並作、スダジイ:－、シラカシ:豊作、クマノミズキ:並作、ウワミズザクラ:豊作			
山口県	—	—	凶作	シバグリ:豊作、アラカシ:豊作、スダジイ:並作、シラカシ:－、クマノミズキ:凶作、ウワミズザクラ:豊作			

※地域によって、秋のクマの大量出没に影響を与える餌資源や、その組み合わせ等が異なることに留意

※調査者によって豊凶の程度の分類方法は異なる。調査結果が平均未満の項目については表のセルを着色した（例えば分類数が5の場合は下位の2分類、分類数が4の場合は下位2分類）

※多くの都道府県で地域を区分した結果を公表しているため、詳細は各都道府県の公表資料を確認すること

※豊作等の実りが豊かである結果であっても、都道府県内の地域単位では実りの悪い地域があること、人里に誘因物がある場合は個体によっては出没する可能性があることに留意

※クマが恒常的に生息していない、または生息数が少ない茨城県、千葉県、大阪府、四国・九州・沖縄各県は除外

※「ー」は調査なし